

「南門のタチオアイ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大学の南門の近くの急坂に、タチアオイが咲いている。梅雨の始まりとともに咲き始め、根元から順に開花し、上へ上へと伸びてゆく。全部咲き終る頃に、梅雨明けを迎えることが多い。そんなことから、別名「ツユアオイ (梅雨葵)」ともいう。



「タチアオイ」 *Althaea rosea* (アオイ科)

私はこのタチオアイに思い出がある。小学校一年生の時、京王線の北野駅前の方屋具屋さんの女の子と仲が良くて、よく遊びに行った。そのお店の店先に、タチアオイが咲いていて、テントウムシがたくさんとれた。よく探すと、黒い幼虫やサナギも見つかって、「テントウムシは、幼虫→サナギ→成虫と成長する」と、自然に学んだように思う。

更に小さい時、小平に住んでいた3歳か4歳の時、やはりタチアオイについていた赤いテントウムシを口に入れてしまい、文字通り苦い思いをした。恐らく、私の持つ最も遠い記憶だろう。



タチアオイの花は美しい。何かの花に似てるなと思っていたが、そうそう、オクラの花に似ている。オクラの花は薄い黄色なので、似ているのは形だけだ。それもそのはず、オクラも「アオイ科 *Malvaceae*」の植物なのだ。そういえば、ハイビスカスの花にも似ている。実はハイビスカスもアオイ科の植物だ。



葉の形もオクラに似ている。1学期中に時間があつたら、「オクラに似た形の花をさがしに行きましょう」と、3年生の子どもたちと出かけてみたい。